

## 中村区の魅力

中村区の地名のもととなっているのは「尾張中村」といわれ、中村とはこのあたりの「中心」という意味があったと言われていて、名古屋市の中心はどこかと聞かれれば、人によって答えは異なると思われず。

この「中村☆魅力にきてちょうMAP」は、今年の秋に竣工予定の「リニア中央新幹線」が名古屋駅の西口に新駅ができ、地下ではあるが大開通の鳥居の下までリニア中央新幹線が建設されます。今後は名古屋駅から西方面の中村公園エリア、大門エリア、駅西エリアに注目してもらうために明治、大正、昭和の時代を感じる「中村区の魅力」を紹介することを目的に作成しました。

- ◆企画・編集  
中村☆魅力にきてちょうMAP編集委員会  
(中村区商店街振興組合連合会、豊国神社、名古屋造形大学、同朋大学、中村まち歩きマイスターの会、名古屋観光コンベンションビューロー、中村区役所まちづくり推進室、中村土木事務所)
- ◆構成・レイアウト  
(株)都市研究所スペース
- ◆イラストマップ  
秋元みさお
- ◆発行・寄贈  
ライオンズクラブ国際協会334-A地区1R2Z
- ◆発行部数 10,000
- ◆発行 平成26年11月



名古屋ウエストライオンズクラブ  
名古屋大開ライオンズクラブ  
名古屋徳川ライオンズクラブ  
名古屋中村ライオンズクラブ  
名古屋本丸ライオンズクラブ  
名古屋ブルースカイライオンズクラブ  
名古屋シティライオンズクラブ

## 中村区ゆかりの武将

戦国武将(江戸時代の大名)の7割が愛知県から輩出されているといわれています。尾張中村からは三英傑の一人豊臣秀吉とその子割の武将で築城の名手といわれた加藤清正が生まれています。郷土が生んだ武将は現在の中村区の道路、公園、学校などの地名にも多く残されており二人の武将の偉大さを感じます。秀吉には生まれ故郷の「中村のごぼう」の逸話が残っていますが、中村で百姓だった時の想いが天下人への原動力になったといえるのではないのでしょうか。秀吉・清正に想いを寄せ、中村区内のゆかりの地をめぐってみませんか。

### 豊臣秀吉 とよとみひでよし

戦国時代から安土桃山時代にかけての武将・天下人・関白・太閤、三英傑の一人、墨俣の一夜城、金ヶ崎の退き口、高松城の水攻め、中国大返し、石垣山一夜城など機知に富んだ逸話が伝わり、百姓から天下人へと至った生涯は「戦国一の出世頭」と評されています。



### 中村にかかるとあるエピソード「中村のごぼう」

秀吉が墨俣に城を建てた時や長浜城主になった時、大阪城を建て関白になった時、中村の農民たちがごぼうをお祝いとして差しあげたという話ば、そのお返しとして年貢を永久免除されました。そのおかげで農民は裕福な暮らしをすることができ、そのお礼に、今度は立派な刀や精神な駿馬を携えたと。秀吉からは「ばかも何故、ごぼうを持ってこなかった」と怒りの声。「いつもごぼうを持ってきてくれてありがたかった。まだ俺が百姓だった頃を思い出した。」

### 中村ゆかりの秀吉ファミリー



### 加藤清正 かとうきよまさ

豊臣秀吉の子割の家臣で、賤ヶ岳の七本槍・七将の一人です。その後も各地を転戦して武功を挙げ、肥後北半国を与えられました。秀吉没後は徳川氏の家臣となり、関ヶ原の戦いの働きによって肥後一國を与えられ、熊本藩主となりました。藤堂高虎と並ぶ築城の名手として知られ熊本城や名護屋城、岡山備前、江戸城、名古屋城など数々の城の築城に携わりました。



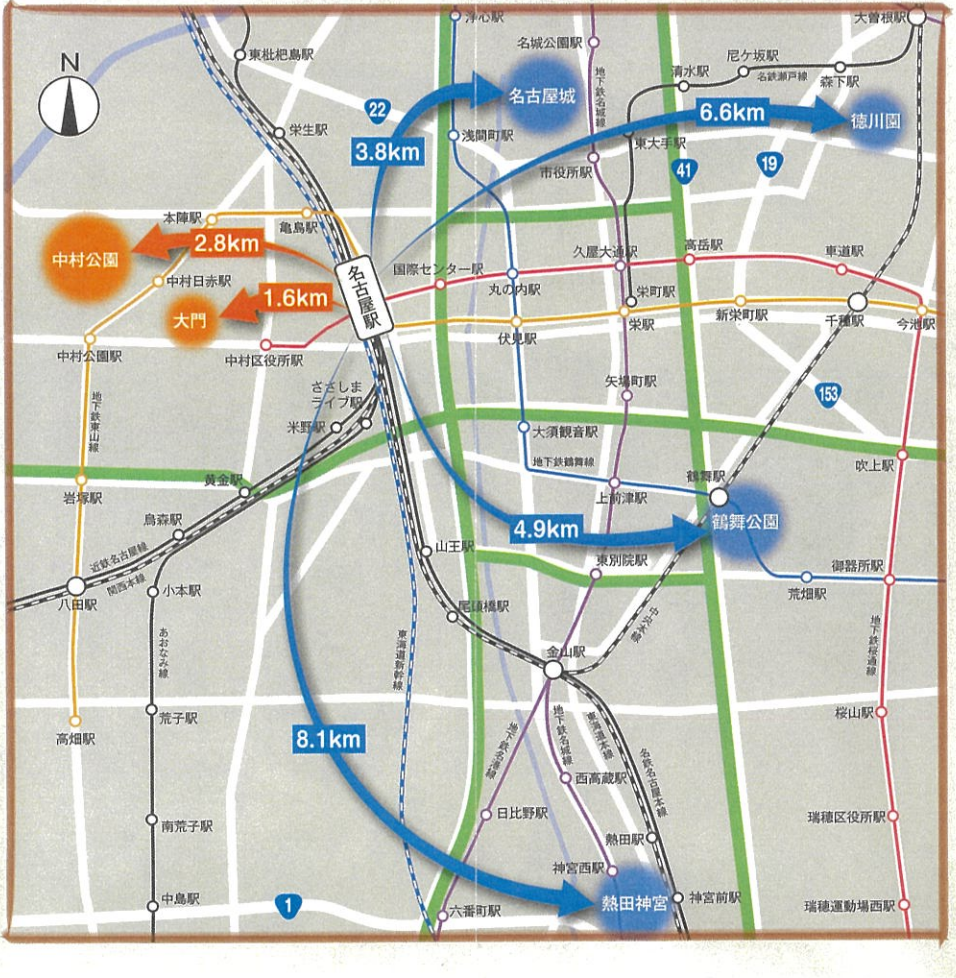
### 清正と秀吉の関係

永禄5年(1562年)生まれ。秀吉とは25歳差。母伊都は、秀吉の母なかの従姉妹。誕生した家の隣は秀吉の家であったとの説もあります。5歳で津島へ移り、15歳の時、母の勧めで秀吉に仕官しました。秀吉の親戚のとして将来を期待され、秀吉に可愛がられました。清正もこれに答え、生涯忠義を尽くし続けました。

### 秀吉・清正ゆかりの城



## 名古屋駅からの距離



# 中村☆魅力にきてちょうMAP

秀吉・清正生地尾張中村 ひできまん

## 中村区の歴史・現状・将来

### 歴史

中村区の岩塚にある七所社には、日本武尊と関係が深い神社で岩塚の地名の由来となった古墳もありません。中村公園の近くには鎌倉街道と、庄内川の渡しや宿場もありました。秀吉が生まれた戦国時代の中村は農地が広がり、のどかな農村であったと思われず。

そのような戦国時代の「尾張中村」に天文6年(1537)豊臣秀吉が中村公園あたりで誕生し、永禄5年(1562)加藤清正も中村公園の東にある妙行寺で誕生したと言われており、幼少時代を中村ですごした二人は、戦乱の時代を武将として活躍し、多くの功績を残しています。江戸時代に入ると、中村は徳川幕府からは高い年貢を取り立てられたとも伝わっていますが、

江戸から明治に時代がかわると、地元住民の熱意で明治18年に秀吉の生誕地であると言われている現在の中村公園に豊臣秀吉を祀る豊国神社が創建されました。

明治20年には現在の徳島交差点付近に名古屋駅ができました。明治34年(1901)には、愛知県が地元住民から土地等の寄付を受けて中村公園の整備を始めました。

### 中村区の主な出来事

- 明治18年(1885)愛智郡中村に豊国神社が創建
- 明治34年(1901)愛知県が中村公園の整備に着手
- 明治43年(1910)大正天皇(当時皇太子)が中村公園を啓行
- 大正10年(1921)中村が名古屋市に合併
- 大正12年(1923)中村遊郭が営業開始
- 昭和5年(1930)大鳥居が完成
- 昭和12年(1937)西区、中区から分けて中村区が誕生
- 昭和20年ころ駅西に開業
- 昭和33年(1958)名楽園産業(中村遊郭)
- 昭和44年(1969)地下鉄が中村公園まで開通
- 平成39年(2027)リニア中央新幹線開業予定

### 現状

名古屋駅の東側では高層のビルが建ち名古屋の玄関口となってきましたが、名古屋駅から西方面はこれまで、まちづくりや観光面ではあまり、注目されることがありませんでした。現在では、中村公園周辺では、活性化に向けて地元のボランティアさんによる「歴史ガイド」、ご当地キャラの「ひできまん」の活躍、秀吉由来といわれる「ゴボウ料理」の展開や地元の方々の熱烈な「スカイバス歓迎」等の取り組みが進んでいます。



名古屋駅西地区では、「アニメ関連ショップ」が多くの若者が集い、ポップカルチャーの発信地となりつつあります。また、中村区のアイドル「dela」も駅西で誕生し、海外コンサートを開催するほど活躍しています。



### 将来

リニア開業により、名古屋駅は日本有数のターミナル駅として国内外からの来訪者が一層増えることとなります。中村区には、このMAPで紹介しているもの以外にも多くの魅力的なスポットがあることから、この機会をとらえ、たくさんの人に中村区の多彩な魅力を知っていただけるよう、様々な主体が連携・協働した取り組みがはじまっています。

## 中村区のお祭り

### 4月 太閤花見茶会【中村公園】

豊臣秀吉が京都の醍醐寺で開いた花見と北野天満宮で開いた大茶会(千人茶会)を合体させた茶会です。中村公園内の茶席では茶会と邦楽演奏が行われ、公園内のイベント広場では武将隊等のステージイベントが繰り広げられます。

### 5月 太閤祭り【豊国神社、中村公園・参道】

郷土出身の英傑、豊臣秀吉公を偲んで毎年5月の中旬の土日に行われます。豊国神社の大祭に合わせ昭和23年から区民の祭として催され、太閤頭巾行列、出世稚児行列の他、神輿や踊りの行列が繰り出し、大勢の見物客で賑わいます。

### 7月 大門夏まつり【新大門商店街】

昭和49年から商店街と地域の住民が楽しめる夏まつりとして始まり、7月の20、21日の2日間開催されます。子供神輿行列、路上大道芸、ちんどん練り歩き、ステージイベント等盛りだくさんの内容で賑わいます。

### 7月 中村公園夏まつり【中村公園】

昭和27年から始まった夏まつりで、写生会、盆踊り、模擬店、ステージイベント、花火鑑賞会が3日間にわたって開催され、多くの市民が楽しみにしています。

### 10月 区民まつり【中村公園】

区民のふれあい、交流の場として、毎年10月に開催されるおまつりです。当日は、華やかな参道パレードや充実したステージイベントが開催されるほか、体験・展示・飲食などの模擬店が数多く出展し、大勢の人出でにぎわいを見せます。

### 2月 きねこさ祭【七所社 岩塚町】

日本武尊始め7柱の神を祀るので古来より七所社といわれ、旧暦1月17日に行われます。子孫繁栄、天下泰平、五穀豊穡などを祈念して行われ、尾張の三大奇祭といわれています。

## 中村区の商店街

### 広小路名駅商店街

広小路名駅商店街は、徳島交差点から柳橋交差点までの広小路通り両側350mの商店街です。オフィスビルと飲食店が構成されています。主たるイベントは、①11月～1月のイルミネーション、②10月のミニコンサートがあります。

### 名古屋駅西銀座通商店街

名古屋駅西口に近接する東西約500mの商店街。夏はゆかた祭り、冬は電飾イルミネーションを実施。ノスタルジックな雰囲気を残しつつ、飲食店も続々オープンし、駅近で人が集まる「おいしい商店街」をめざしています。

### 広小路西通1丁目商店街

納屋橋から江川線通りまで広小路通りをはさんで150mくらいの複合員数40を数える商店街です。商店街として花時計やハンギングバスケットを設置し、年中季節の花を飾っており、また、堀川を中心としたフワフワフェスティバルやウォーターマジックフェスティバルにも参加しています。

### 新大門商店街

名古屋駅と中村公園の真ん中に位置する商店街。毎年街を挙げて行う「大門夏まつり」は41回目を数え、皆様に愛されるお祭りとなりました。昔からの店と新しいお店、地域の皆様が続け付き新しいモノを創り出す、「コミュニティー商店街」を目指しています。

### 西柳錦商店街

西柳錦商店街は、名古屋駅の東側で名古屋駅にも近く、魚問屋の市場を中心に多くの店があります。特に年末の大売出しには多くの市民がお正月の食材を買い求めることが風物詩となっています。

### 箕瀬本通商店街

昭和の初めであった、箕瀬川を埋め立てて道路になりその道沿いに店ができ人が集まり商店街に発展しました。その箕瀬川にはかっぱが子供を助けたという伝説があり今では「かっぱ商店街」の愛称で親しまれています。

### お祭りカレンダー

4月	太閤花見茶会(中村公園)	太閤祭り(中村公園)
5月	エネビア(名古屋駅南地区)	フワフワフェスティバル(広小路西通1丁目商店街)
6月		
7月	かひまつり(箕瀬本通商店街)	大門夏まつり(新大門商店街)
8月	駅西ゆかた祭り(名古屋駅西銀座通商店街)	ヒバリパレード(名古屋駅西銀座通商店街、広小路名駅商店街)
9月		
10月	名古屋まつりパレード(広小路西通1丁目商店街、広小路名駅商店街)	中村区区民まつり(中村公園)
11月	イルミネーション(11月)(広小路名駅商店街、広小路西通1丁目商店街)	
12月	市場年末大売出し(西柳錦商店街)	
1月		
2月	きねこさまつり(岩塚七所社)	
3月		



# 中村公園エリア

天下人・秀吉と  
察城の名手・清正が生まれたまち

**豊国神社**  
秀吉は死後、豊国大明神という神として祀られるようになりましたが、徳川の時代になるとその信仰は禁止されました。明治維新後、その復活運動が高まり、豊臣秀吉の出生地と伝えられる中村に明治18年(1885)8月県令(県知事) 園定廉平の尽力を得て創祀しました。戦後には、中村区を中心に崇敬者は全国に及び、出世開運、茶道、建設等の文化の神として親しまれ、多くの参拝者が訪れています。

**常泉寺**  
慶長11年(1606)加藤清正が一族の円住院日圓上人とはかって秀吉を祀るために創建したお寺。この地は筑阿弥(秀吉の義父)の宅跡で秀吉降誕の地であるといわれています。境内には、秀吉の銅像の他に、秀吉産湯の井戸、手植えの桜があります。

**妙行寺**  
加藤清正生誕地に、清正が名古屋築城の際の余材をもって建立した寺。境内には清正の銅像や石佛が建っています。清正堂には清正の死後、熊本本妙寺から日通上人作の清正尊像が贈られ安置されています。戦で負け知らず、城作りの名人清正を神とする清正公信仰が日蓮宗の寺を中心に全国に広まりました。開運と商売繁盛の神として信仰されています。

**大鳥居・参道・九の市**  
参道には大正10年(1921)、中村区が名古屋市に編入されたのを記念して昭和4年(1929)に作られた鉄筋コンクリート製の大鳥居があります。柱の直径2.4m、高さ24m、笠木の長さ34.5mあり、大きさの点では日本有数。大正期は路面電車が鳥居の脇を通り公園入口まで運行されていました。現在は歩道が拡張され、九の市(9, 19, 29)が開催されます。

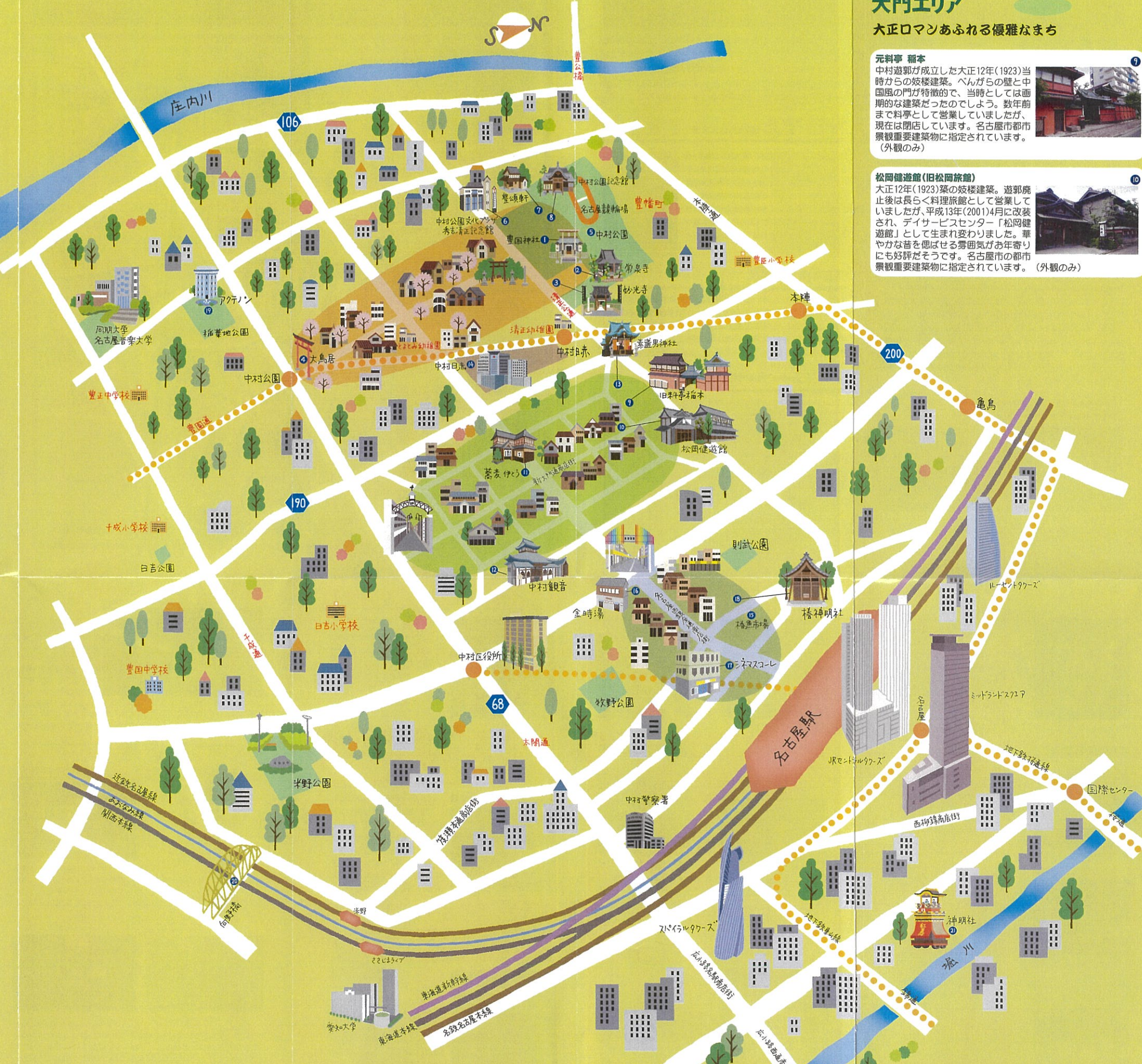
**中村公園**  
地元住民が神社周辺の土地を愛知県への寄付を契機に明治34年(1901)に愛知県有の公園として誕生しました。その後名古屋市域に編入にあわせて、愛知県から名古屋市が譲渡を受け、昭和22年(1947)に都市計画公園として計画決定(11.2ha)、現在は競輪場区域を除き6.27haが名古屋市の都市公園となっています。

**中村公園文化プラザ(秀吉清正記念館、図書館、中村文化小劇場)**  
二階にある秀吉清正記念館は昭和42年(1967)、中村出身の武将、豊臣秀吉と加藤清正を記念するために設立されました。当時は豊正二公顕彰館という名称でしたが、平成3年(1991)に建て替えられ、今の名称となりました。名古屋博物館の分館で、豊臣秀吉画像と加藤清正画像を所蔵しています。(入場無料)

**中村公園豊頌軒(認定地域建造物資産)**  
もと松林庵と言われ、明治初期に建築され、昭和32年(1957)に祖父江町から中村公園内に移築され、寄付されました。四畳半台目席と二畳席を持つ茶室で、昭和63年(1988)にできた桐蔭茶室とともに市民に使用され親しまれています。

**中村公園記念館(認定地域建造物資産)**  
明治43年(1908)に加藤清正没後300年を記念して県が建築し、皇太子(後の大正天皇)が中村公園に立ち寄った際に迎賓館として使用され、昭和29年から昭和42年までは結婚会場としても使われました。格式ある書院造の建物で唐破風の玄関に特徴があり、明治期の公共木造建築物として稀少性も高いものです。

**秀吉・清正ゆかりの地名 (赤文字)**  
通り名：太閤通、千成通、豊國通、清正公通  
橋：豊公橋  
公園：日吉公園  
小学校：日吉小学校、豊臣小学校、千成小学校  
中学校：豊正中学校、豊国中学校  
幼稚園：清正幼稚園、とよみ幼稚園  
地名：豊福町



**アクテナ(名古屋演劇練習館・旧稲葉地配水塔)**  
昭和12年(1937)に市西部の配水施設として竣工。昭和40年(1965)から図書館として利用されていましたが、図書館の移転でその後は平成7年(1995)からは演劇練習館として利用されています。直径1.5mの16本の円柱が特徴で都市景観重要建築物等に指定されています。

**向野(こうや)橋(認定地域建造物資産)**  
昭和5年(1930)当時の国鉄名古屋機関区に設けられました。この橋のトラス(三角形を基本単位としてその集合体で構成する構造形式)部分は明治32年(1899)京都鉄道保津川橋梁として架橋したもので、日本の「鉄の橋百選」にも選ばれています。

# 大門エリア

大正ロマンあふれる優雅なまち

**元料亭 福本**  
中村遊郭が成立した大正12年(1923)当時からの娼楼建築。へんがらの壁と中国風の門が特徴的で、当時としては画期的な建築だったのでしょうか。数年前まで料亭として営業していましたが、現在は閉店しています。名古屋市の都市景観重要建築物に指定されています。(外観のみ)

**松岡健遊館(旧松岡旅館)**  
大正12年(1923)築の娼楼建築。遊郭廃止後は長らく料理旅館として営業していましたが、平成13年(2001)4月に改装され、デイサービスセンター「松岡健遊館」として生まれ変わりました。華やかな昔を偲ぶ雰囲気がお年寄りにも好評だそうです。名古屋市の都市景観重要建築物に指定されています。(外観のみ)

**蕎麦 伊とう (登録地域建造物資産)**  
中村遊郭が成立した大正12年(1923)築の娼楼建築。平成24年(2012)4月に、手打蕎麦店として、生まれ変わりました。往時の趣を感じながら、ゆったりと食事を楽しむことができます。

**中村観音(白王寺)**  
中村観音通り沿いにある、高さ8mの観音像を本尊とする寺院。昭和の初め、初代住職が米野火葬場に放置されていた無縁のご遺骨を供養するためと、地域の発展守護を願い、高名な仏師「花井探瀛氏」により昭和8年(1933)に完成。近年は観音様の御体内に納骨される方も多く、無料行事として毎月18日のお茶会、2月3日の節分まきなどがあります。

**素盞男(すさのお)神社**  
素盞男神社は、安永3年(1774)現在の名古屋千種区山手付近に創建され、大正13年(1924)現在地に移転されました。7月20, 21日の例大祭の他に11月の酉の日の午前0時から、商売繁盛、家内安全を祈願する「酉の市」(おとりさま)が開催され、一番札を頂こうとする人や開運の熊手、福招きの箕、宝船などを求める参拝者で賑わいます。

**遊里ヶ池(中村日赤)**  
大正初めまで田畑しかなかった中村遊郭建設用地を整備するためにたくさんの土砂を掘ったので、遊郭西隣に遊里ヶ池ができました。夏はボート・魚釣り等で賑わい、中村周辺に住む人たちの憩いの場所でした。初期の遊郭名物であった花火大会の仕掛け花火はこの池畔で行なわれましたが、昭和12年(1937)には、池を埋め立て日本赤十字社愛知支部名古屋病院が開設されました。

# 駅西エリア

なつかし昭和レトロなまち

**精魚市場・金時湯**  
西口には昭和を感じる精魚市場や金時湯(登録地域建造物資産)もあります。

**シネマスコール**  
昭和57年(1982)に故・若松孝二監督が立ち上げたミニシアター。アジア映画やインディーズ映画の分野では中部地区随一のラインアップを誇っています。なお、スコールはラテン語で学校を意味しています。

**椿神社と菟淵川の河童伝説**  
小治田之真清水(おわりだのみしみず)尾張名所図会の付録版に『古木が生い茂り、椿の大樹も多し。承いそうぐめがしい森』とあります。主祭神は伊勢の外宮と同じ食物をつかさどる神饗豊受比売命。東側を菟淵川が流れていて、ここに河童の話が伝わっています。

**(神明社)**  
10月の大祭には3両の山車(紅葉狩車、二福神車、唐子車)市指定文化財)が町内を練り回ります。最近では中村公園で開催された中村区民まつりに山車が参加しました。